

個別注記表 主要注記の書き方 チェックリスト

1.区分と省略可否の判定

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	個別注記表の区分を、会社計算規則の区分に沿って並べた - 基準：継続企業の前提、重要な会計方針、会計方針変更、表示方法変更、見積り変更、誤謬訂正、貸借対照表、損益計算書、税効果会計、リース、金融商品、賃貸等不動産、持分法損益、関連当事者、後発事象、連結配当規制適用会社、資産除去債務、収益認識、その他
<input type="checkbox"/>	会社区分に応じて「省略できる注記」を判定し、判定結果を残した - 補足：個別注記表には省略が認められる場合があるため、会社区分と対象区分を明示して判断する
<input type="checkbox"/>	「該当なし」の区分は、残すか省略するかを社内ルールで統一した
<input type="checkbox"/>	省略した区分は、レビュー時に「なぜ該当しないか」を説明できる根拠がある

2.注記共通の書き方

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	各注記が、読者が判断できる粒度で書かれている - 補足：結論だけでなく、対象範囲、前提、見積り方法、金額影響の有無、比較情報の扱いを最低限そろえる
<input type="checkbox"/>	「別途参照」「記載あり」など、単体で意味が通らない文言がない
<input type="checkbox"/>	用語の定義と使い分けが統一されている - 補足：子会社、関連会社、関係会社、関連当事者などの用語を混在させない
<input type="checkbox"/>	数値を記載する注記は、元帳や集計表と突合した

3.個別注記表の主要注記一覧

3-1.継続企業の前提

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	継続企業の前提に重要な疑義があるかを結論づけた
<input type="checkbox"/>	疑義がある場合、事象や状況、対応策、重要な不確実性、影響の反映有無まで書いた - 補足：注記で求められる事項の型に沿う

3.個別注記表の主要注記一覧

3-2.重要な会計方針

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	資産の評価基準と評価方法を、対象区分ごとに記載した - 補足：有価証券、棚卸資産などは区分により方法が異なるため、区分と方法を対応づける
<input type="checkbox"/>	固定資産の減価償却方法を資産区分ごとに記載した
<input type="checkbox"/>	引当金がある場合、引当金の種類ごとに計上基準と見積り方法を記載した
<input type="checkbox"/>	収益と費用の計上基準で複数の処理がある場合、取引の種類と基準を対応づけた
<input type="checkbox"/>	その他の重要事項として、消費税などの会計処理を明記した - 補足：重要な会計方針に含める事項の枠組みに沿う

3.個別注記表の主要注記一覧

3-3.会計方針の変更

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	変更の有無を確認し、変更がある場合のみ注記した
<input type="checkbox"/>	変更内容、変更理由、遡及適用の有無、影響の出し方を明確にした - 補足：注記の要素が定義されているため、その要素で書く

3.個別注記表の主要注記一覧

3-4.表示方法の変更

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	表示方法変更の有無を確認し、変更がある場合のみ注記した
<input type="checkbox"/>	変更内容と変更理由を記載した

3.個別注記表の主要注記一覧

3-5.会計上の見積りの変更

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	見積り変更の有無を確認し、変更がある場合のみ注記した
<input type="checkbox"/>	変更内容と、当期の財務諸表項目への影響額を記載した

3.個別注記表の主要注記一覧

3-6.誤謬の訂正

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	誤謬の有無を確認し、ある場合のみ注記した
<input type="checkbox"/>	誤謬の内容と、期首の純資産額への影響額を記載した

3.個別注記表の主要注記一覧

3-7.貸借対照表に関する注記

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	担保提供資産がある場合、資産の内容と金額、担保に係る債務の金額を記載した
<input type="checkbox"/>	保証債務、重要な係争事件に係る損害賠償義務などの有無を確認し、ある場合は内容と金額を記載した
<input type="checkbox"/>	関係会社や役員に対する金銭債権債務がある場合、区分ごとに金額を整理した

3.個別注記表の主要注記一覧

3-8.損益計算書に関する注記

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	関係会社との取引高を、営業取引と営業取引以外に区分して記載した
<input type="checkbox"/>	減損損失を認識した場合、対象資産または資産グループを整理し、注記要否を判断した

3.個別注記表の主要注記一覧

3-9.税効果会計

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	税効果会計の適用有無を明確にした
<input type="checkbox"/>	適用する場合、繰延税金資産または繰延税金負債の発生原因を整理し記載した

3-10.リース

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	リース取引の有無を確認し、該当する場合のみ注記した

3.個別注記表の主要注記一覧

3-11.金融商品

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	金融商品の状況に関する事項として、取組方針、リスク、リスク管理体制を整理した
<input type="checkbox"/>	時価等の注記について、市場価格のない株式等の取扱いを整理した
<input type="checkbox"/>	時価のレベル別内訳など、適用対象となる開示を判定した

3.個別注記表の主要注記一覧

3-12.賃貸等不動産

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	賃貸等不動産の有無を確認し、該当する場合のみ状況と時価を整理した

3-13.持分法損益

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	持分法適用の有無を確認し、該当する場合のみ注記した

3.個別注記表の主要注記一覧

3-14.関連当事者との取引

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	関連当事者の範囲を確定し、関連当事者ごとに表示した
<input type="checkbox"/>	取引条件が一般取引と異なる場合、条件の内容が分かるように整理した
<input type="checkbox"/>	重要性が乏しい取引を省略する場合、省略判断を説明できる根拠がある

3.個別注記表の主要注記一覧

3-15.重要な後発事象

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	決算日後から計算書類確定までの重要事象を棚卸しした
<input type="checkbox"/>	重要な影響がある場合、事象の内容と影響の見通しを記載した

3.個別注記表の主要注記一覧

3-16.連結配当規制適用会社

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	該当の有無を確認し、該当する場合のみ注記した

3-17.資産除去債務

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	資産除去債務の有無を確認し、該当する場合のみ注記した

3.個別注記表の主要注記一覧

3-18.収益認識

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	収益認識の注記が必要な範囲を確定した - 基準・補足：収益の分解情報、収益を理解するための基礎情報、当期および翌期以降の収益を理解するための情報の観点で整理する
<input type="checkbox"/>	収益の分解情報を、自社の事業実態に応じた適切な区分で作成した
<input type="checkbox"/>	契約資産と契約負債の残高など、必要な情報の有無を確認して記載した
<input type="checkbox"/>	残存履行義務の注記が必要かを判定し、必要な場合は金額と時期が理解できるように整理した
<input type="checkbox"/>	重要性が乏しいとして省略する場合、開示目的に照らした判断根拠がある

3.個別注記表の主要注記一覧

3-19.その他の注記

チェック	注意事項
<input data-bbox="160 401 202 442" type="checkbox"/>	上記区分に当てはまらないが、財務諸表の理解に必要な事項を洗い出した

チェック漏れ防止のための注意事項

チェック	注意事項
<input type="checkbox"/>	会社区分による省略可否の判定を最初に行わないと、レビューの網羅性を確保できない
<input type="checkbox"/>	重要な会計方針は「書いたか」ではなく、区分と方法の対応が取れているかで判定する
<input type="checkbox"/>	収益認識は注記の要素が複数あるため、分解情報と残存履行義務などの観点で棚卸しする
<input type="checkbox"/>	金融商品は時価の扱いと開示範囲の判定が難所になりやすいため、対象外となる項目を含めて整理する
<input type="checkbox"/>	後発事象は対象期間が決算日後に及ぶため、確定日までのイベント管理と棚卸しが必須である

※2026年3月時点の情報をもとに作成しています